

日露青年交流事業

参加者の声

(2017年版)



日露青年交流センター
Японо-Российский центр
молодёжных обменов

(はじめに)

日露青年交流センターでは、1999年の事業開始以来、短期招聘・派遣事業等を通して日露の青年交流を図る様々なプログラムを実施してきました。

本冊子では、2017年に実施した主要な招聘、派遣プログラムの概要及び同プログラムに参加した方の感想を紹介しています。日露青年交流事業に関心のある方にぜひ、ご一読願いたく、この度本冊子を作成しました。



(左) 日・サントペテルブルク空手交流 (右) ニジニ・ノヴゴロド聴覚特別支援学校交流

(日露青年交流センター設立の経緯)

1998年11月、日露首脳会談（小渕総理、エリツィン大統領）において日露間の国民レベルの人的交流を抜本的に拡充することで合意し、1999年5月、両国の政府間協定に基づき国際機関として設置された日露青年交流委員会の事務局として日露青年交流センターが設立されました。

2008年4月、両国首脳（福田総理、プーチン大統領）は日露合わせて毎年500名規模の日露青年交流を実施することで合意しました。

2012年にこの目標が達成されたことを踏まえ、2013年4月、日露首脳会談（安倍総理、プーチン大統領）で両国間の青年交流の一層の拡大を支持しました。

そして、2016年12月の日露首脳会談（安倍総理、プーチン大統領）では、安倍総理から大学間交流及び青年交流の倍増と、スポーツ交流を3倍増、地域間交流の活性化等について確認し、日露関係の更なる発展につなげていくことで一致しました。2018年は「ロシアにおける日本年」・「日本におけるロシア年」として、年間を通して様々な分野で多数の行事の開催が予定されており、二国間パートナーシップの一層の強化が期待されています。

日露青年交流センターは、日露青年交流委員会の決定に基づき、(1) 短期招聘・派遣事業、(2) 日本語教師派遣事業、(3) 若手研究者等に対するフェローシップ供与事業を主な事業として、1999年7月の事業開始以来、2017年末までに約6,900名（2017年は1,118名）の日露の青年交流を実施しています。

もくじ

(派遣)

| | | |
|---------------------|-----------------|-------|
| ニジニ・ノヴゴロド聴覚特別支援学校交流 | (3月26日～4月1日) | 1 |
| よさこいソーラン・ファッション交流 | (5月30日～6月6日) | 1 |
| サハリン写真家交流 | (5月28日～6月2日) | 2 |
| サハリン日露文化フェスティバル | (6月23日～6月28日) | 2 |
| ウラル・日本週間 | (7月4日～7月18日) | 3-5 |
| 陸上ホッケー交流、日露青年剣道交流 | | 3 |
| 日露声楽家交流、女子サッカー交流 | | 4 |
| エカテリンブルグ国際青年キャンプ | | 5 |
| 十勝農業青年アムール州派遣 | (7月11日～7月18日) | 6 |
| 愛川町和太鼓グループ サハ共和国交流 | (7月25日～8月1日) | 6 |
| 日露青年フォーラム <リヤザン> | (9月18日～9月24日) | 7 |
| 日露青年演劇交流 | (9月19日～9月26日) | 8 |
| 日露料理青年交流 | (9月23日～9月30日) | 8-9 |
| 日・サンクトペテルブルク空手交流 | (9月28日～10月6日) | 9 |
| 世界青年フェスティバル <ソチ> | (10月14日～10月22日) | 10 |
| 日・サンクトペテルブルク大学生間交流 | (12月3日～12月10日) | 10-11 |
| キーロフ州新体操国際大会派遣 | (12月4日～12月11日) | 11 |

(招聘)

| | | |
|---------------------|-----------------|-------|
| 地域医療に関する若手医療関係者交流 | (1月28日～2月7日) | 12 |
| ロシア弓道家招聘 | (1月29日～2月5日) | 13 |
| ロシア囲碁グループ招聘 | (3月10日～3月17日) | 13-14 |
| 将棋・チェス相互交流 | (3月23日～3月30日) | 14 |
| 宮城県・ニジェゴロド州サッカー交流 | (5月20日～5月27日) | 15 |
| 合気道堀越道場交流 | (5月26日～6月5日) | 15 |
| 北海道サハリンよさこいソーラン交流 | (6月7日～6月14日) | 16 |
| 至誠館合気道交流 | (6月8日～6月16日) | 16 |
| 日露サッカーユース交流 | (6月20日～6月29日) | 17 |
| 富山県・ロシア極東ダンススポーツ交流 | (7月4日～7月11日) | 17 |
| 日本語学習青年交流 | (7月9日～7月16日) | 18 |
| 函館ウラジオストクハンドボール交流 | (7月23日～7月29日) | 18 |
| 日・サハ青少年スポーツ文化交流 | (8月8日～8月15日) | 19 |
| 舞鶴ナホトカ・ソフトボール交流 | (8月9日～8月16日) | 19 |
| ハバロフスク・東北北陸相互理解促進交流 | (8月13日～8月20日) | 20 |
| ロシア・松本サイクリング交流 | (8月24日～8月30日) | 20 |
| 愛知・ロシア極東サンゴ交流 | (8月25日～8月30日) | 21 |
| 鳥取県・沿海地方サッカー交流 | (8月30日～9月6日) | 21 |
| 村山・ヤクーツク文化・民族舞踊団交流 | (9月26日～10月3日) | 22 |
| 武蔵野・ハバロフスク学生間交流 | (10月8日～10月15日) | 22 |
| 日本語履修大学生交流 | (10月17日～10月24日) | 23 |
| 福島県玉川村・リヤザン空手交流 | (10月25日～11月1日) | 24 |
| 北海道・サハリン農業交流 | (10月30日～11月6日) | 24-25 |
| ノボシビルスク若手教師交流 | (10月30日～11月6日) | 25 |
| 日本語履修高校生交流 | (10月31日～11月7日) | 26 |
| 日露青年フォーラム <札幌> | (11月17日～11月24日) | 27 |
| 愛媛県・オレンブルグ柔道交流 | (12月4日～12月11日) | 28 |

(派遣)

ニジニ・ノヴゴロド聴覚特別支援学校交流（3月26日～4月1日） 派遣人数:13名



(概要) 東京・千葉の聴覚特別支援学校3校からニジニ・ノヴゴロド市に若手教諭グループ13名を派遣しました。聴覚特別支援児寄宿学校に附属する「ピアノ劇場」でパントマイムや創作ダンスを見学し、ロシア手話を通して生徒と交流を深めるワークショップを行いました。寄宿学校文化祭での日本文化紹介、聴覚特別支援教育専門家との意見交換や日露の聴覚特別支援教育についての情報交換等も行い、双方への理解・関心を深めました。



ピアノ劇場での交流の様子

(参加者の声) 子どもたちの明るい表情や、積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢に感激しました。「子どもたちに伸び伸びさせたい」という意識が、ピアノ劇場全体で共通認識されており、劇等のパフォーマンスを取り入れることで自由な発想や豊かな感受性が実現できているのではないかと考えました。

(筑波大学附属聴覚特別支援学校 半沢 康至)

よさこいソーラン・ファッション交流（5月30日～6月6日） 派遣人数:19名

(概要) ハバロフスク・イルクーツクで日本文化フェスティバル「祭」に参加する、よさこいソーラングループ5名、ファッショングループ14名を派遣しました。フェスティバルでは、踊りの披露やファッションショーの他、現地の服飾文化を学ぶ大学生や専門学生との交流を行いました。



よさこいステージと共演したソルニェシコの皆さん

(参加者の声) 北海道の南中ソーランはじめ、今後も私たちの演舞が日本への興味を持つきっかけとなり、文化や伝統等をもっと知って、日本とロシアの交流がこれからもずっと続くことを願っております。

(藤女子大学 工藤 美空)

ファッションスクールの学生さんの衣装も色使いが華やかでとても美しかったです。私は学校で自身の作品に民族衣装を取り入れているので文化的なデザイン等刺激的で自身の作品に取り入れていきたいと思えます。

(金沢文化服装学院 出村 茉莉子)

(派遣)

サハリン写真家交流(5月28日～6月2日)・日露文化フェスティバル(6月23日～6月28日)
派遣人数:40名(4グループ)

(概要)

ユジノサハリンスクで「サハリン日露文化フェスティバル」が開催されました。フェスティバルに先んじて「サハリン青年写真家交流」を行い、若手写真家5名がフェスティバルに展示する作品撮影やサハリンの写真家・青年との交流を行いました。フェスティバルには阿波踊りグループ、アイヌ伝統工芸家グループ、音楽グループ(三味線・和太鼓奏者、歌手、パフォーマー)計35名を派遣し、日露の伝統文化、芸術を披露し、音楽や踊りを通じた日露交流を行いました。



©伊藤 雅章・飯田 真秀

写真家交流

(参加者の声)

写真を通じた日露青年交流として、都市ではなく自然の中に身を置いてコミュニケーションをとることが出来たのが何よりだったのではないかと思います。ロシア写真家たちの強く穏やかな眼差しを見つめながら、交流の鍵は、きっと互いを尊重する優しさと柔軟さにあり、そしてそれは、私たち一人一人の心の持ち様にあるのだらうと思いました。

(日本写真協会所属 戸川 覚)



阿波踊りグループ (フェスティバルでの舞台)

今回の派遣で、言葉は通じなくても、音楽、踊り、笑顔で心は通じあえたように思います。ロシアが、そしてサハリンが大好きになりました。この派遣により日本とロシアの友好がさらに深まることを心から願っています。

(徳島県阿波踊り協会 嬉茶平 真鍋 尚美)



アイヌ工芸家グループ (伝統の機織り実演)

アイヌ文化・アイヌ工芸を発信するチャンスと異文化を知るきっかけをくれたこの体験は、私にとっても大変貴重な経験になりました。今後も日露の文化交流が続き、互いに文化の理解が深められることを願っています。

(公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 尾崎 友香)



音楽グループ (フェスティバルでのステージ)

今回、見てみないとわからなかったこと、実際に触れ合ってみないとわからないことがたくさんありました。ロシアの皆さまは本当に暖かいし、チャーミングな方が多い印象でした。日本の文化に対して敬意を払ってくれていると感じましたし、強い興味を抱いてくれました。日本の「世話焼き」のような粋な精神も感じました。次回はロシアのアーティストとのコラボレーションがしたいです。今回の文化交流を通して互いが近い存在であることが確信できました。またサハリンに行きたいですし、サハリンの皆さまも日本に来て欲しいです。

(津軽三味線奏者 小山 清雄)

(派遣)

ウラル・日本週間（7月4日～7月18日）

派遣人数:84名(5グループ)

(概要)

エカテリンブルグで毎年開催されているロシア最大規模の産業総合博覧会「イノプロム」の2017年パートナー国が日本であったことから、会期中スヴェルドロフスク州政府の支援のもと「ウラル・日本週間」として様々な日本文化に関連する催しが開催されました。日露青年交流センターからは、陸上ホッケー（20名）、剣道（25名）、声楽（8名）、女子サッカー（14名）、青年キャンプ（17名）、の5つの交流グループを派遣しました。

(参加者の声)

陸上ホッケー交流：「ディナモストロイチェリ」と陸上ホッケー交流をした他、陶器製作等のロシア文化体験をしました。



初めて見る海外の選手は身体がとても大きく威圧感がありました。ロシアではインドアホッケーでテクニックが磨かれていて、大変上手で圧倒されました。試合中はお互い激しく戦っていましたが試合が終わるとロシア選手から握手を求めてくれて、スポーツを通しロシアとの交流も深める事ができ改めてスポーツの素晴らしさを感じる事ができました。 (U-21男子ホッケー日本代表 井関 渉二)

日露青年剣道交流：國學院大學・信州大学の学生を派遣し、ポドーリスク・エカテリンブルグにて剣道交流、演武をしました。



ロシアの人達は、楽しく、真面目に剣道をしていて、本当に剣道が大好きなのだと感じました。勝負にこだわるのではなく、剣道自体を楽しんでいる様に見えました。優しく笑顔が素敵な人達ばかりで、私達に良くしてくださり、こんなにも良い方たちと国際交流ができた事をとても嬉しく思っています。剣道で人と人が繋がる素晴らしさを経験できたことは一生忘れません。 (國學院大學 辻本 葵)

(派遣)

日露声楽家交流：ロシア声楽を学ぶ日本人青年を派遣し、ウラル国立音楽院・ウラル音楽カレッジ・スヴェルドロフスク文化学校・スヴェルドロフスクフィルハーモニーアカデミーの学生たちと声楽交流を行いました。



実際にロシアへ行ってみて、日本で楽譜へ向かい思いを馳せているだけでは到底感じる事の出来なかった土地の広さ、自然の豊かさ、そして人々の心の広さを体感する事ができました。チャイコフスキー博物館で日本の童謡「ふるさと」を演奏したとき、目の前のお客様が涙を流されていました。言葉はもちろん、メロディーも聞きなれないこの曲で何を感じてくれたのだろうか、音楽の力で我々の思い、感謝が伝わったのではないかと思います、友好の大きな可能性を見る事ができました。このプログラムをきっかけとして音楽が日本とロシアの架け橋の一つとなるよう今後も努めていきたい。(東京音楽大学 的場 正剛)

チャイコフスキー博物館（アラパエフスク市）でのコンサートの際は、小さな子どもたちと手をつないで一緒に歌ったりしました。交流時間中はロシアの学生の皆さんがロシア民謡を演技付きで歌ってくださったり、ロシア民謡の大合唱となったり、ロシアの人達にとってロシア民謡は老若男女皆が歌えるとても身近なものであるということがわかりました。(黒澤麻美ロシア声楽曲研究会 原 彩子)

女子サッカー交流：東北公益文科大学の女子サッカーチームを派遣し、ウラル連邦大学チームと交流しました。



こんなに伸び伸びと思いきりプレーしたことは初めてというくらい楽しむことができました。試合で勝った時は本当に嬉しかったです。エカテリンブルグで出会ったロシアの方々には本当にお世話になりました。言葉さえ解れば話せば伝えられるのにと何度も感じました。ロシア語も解るようになりたいと深く感じました。そして、いつか必ずエカテリンブルグを訪れ、今回伝えることができなかった感謝の気持ちをロシア語で伝えたいです。(東北公益文科大学 結城 奈々)

(派遣)

エカテリンブルグ国際青年キャンプ交流：「情報文化センター日本」との共催で、極東連邦大学函館校・東京外国語大学・上智大学でロシア語を専攻する学生を派遣し、ウラル連邦大学等で日本語を学ぶ学生と交流しました。イノプロム会場にて「改善」をテーマにディスカッションした他、エカテリンブルグ郊外のコウロフカ村にてキャンプを行い、チームワーク・リーダーシップ育成トレーニングや日露の文化体験を行いました。



(左上) イノプロム会場でのディスカッション (右上) キャンプ場での書道体験 (左下) ロシア伝統の草人形作り (右下) チームワーク育成トレーニング

キャンプでは日本人とロシア人が混ざった 3 つのグループに分けられ、グループ毎にいろいろなアクティビティを行いました。どのアクティビティもグループの全員がお互いを信じ、協力しないと成功できないもので、全部やり遂げることができた後はみんなで喜び合い、達成感がありました。運動神経や度胸が求められる場面で、ロシア人は男女問わずどんどん挑戦していて、日本人との違いを感じました。プログラムを通じてできた、エカテリンブルグの友人たちや日本で同じロシア語を学ぶ人たちとの新たな繋がりも大切にしていきたいと思っています。
(東京外国語大学 小野 愛紬)

ロシア語を専攻していたとしても、「ロシア」を直に感じられる場はそう多くはありません。ロシアへ行くまで「ロシア人は冷たい」という根拠のないロシアに対するイメージを持っていました。しかし、キャンプを通じてロシアのみんなと会話し、互いにコミュニケーションを取り合っていく中でロシアのみんなの心のあたたかさに触れることができました。そして何よりも私を驚かせたことは、私たちの国、日本について多くの人が興味関心や親しみをもってくれているという事実でした。ロシアの人々はマンガやアニメなどのサブカルチャーから文化や歴史まで幅広く興味を持ってくれています。その一方で、日本人はロシアに対してそこまで興味関心を持っていないと私は思います。私たちはこの近くて遠い隣国についてもっと知る必要があると強く感じました。
(大阪大学 後藤 大輝)

(派遣)

十勝農業青年アムール州派遣（7月11日～7月18日）

派遣人数:11名

(概要) ハバロフスク・ブラゴヴェシチェンスクに北海道の若手農業従事者等11名を派遣し、ハバロフスク太平洋国立大学・極東国立農業大学・アムール州議会の訪問、温室コンプレックス視察、アムール州農業連盟等での意見交換会等を行い交流しました。



(左) 太平洋国立大学での交流 (中) 乳製品メーカー「フラドコンビナート」見学 (右) 牧場訪問

(参加者の声) ロシア側のみなさんに温かく迎えていただけた事にとっても感動しました。距離的にはとても近い場所にもかかわらず、歴史的背景などの先入観により遠く感じていたのだなと思いました。実際に行ってみないとわからない、食べ物は食べてみないとわからない、人に会ってみないとわからないという通り、北海道の隣である極東ロシアで空気や建物、文化の違いを感じ、食べ物に使われる食材は北海道と同じ食材でも味が全く違うこと、ロシアの人の謙虚さ、真面目な一面がとても共感できると感じました。

(ベルセゾンファーム 村上 寿世)

愛川町和太鼓グループ サハ共和国交流（7月25日～8月1日） 派遣人数:8名

(概要) ヤクーツク・ハバロフスク・シカチアリャン村へ青年和太鼓グループ「打縁」のメンバーを派遣しました。現地では「笛と太鼓の音楽祭」、民族芸能祭「極東のリズム」での和太鼓演奏披露や笛・太鼓のワークショップを行い、音楽を通じた青年交流を行いました。



(左) 音楽祭でのステージ (右) シカチアリャン村にて笛と太鼓のワークショップ

(参加者の声) 以前から交流のある現地太鼓グループ「テティム」の子供たちの一生懸命太鼓を叩いている姿や演奏を見てとても感動しました。ハバロフスク・シカチアリャンでの民族芸能祭「極東のリズム」にも多くの方たちが来て下さり、皆さんに楽しんでもらえたので本当に嬉しかったです。

(和太鼓グループ「打縁」山田 梨江)

シカチアリャン村で行った笛と太鼓のワークショップでは、村の方々に和太鼓について経験してもらい、楽しんで頂く姿を見ることができました。実際に和太鼓のビジュアル、音を好きになってくれた方もいて嬉しく思いました。

(和太鼓グループ「打縁」田中 杏平)

(派遣)

日露青年フォーラム <リャザン> (9月18日～9月24日)

派遣人数:28名

(概要)

ロシア国際青年センター・リャザン国立大学との共催で日露青年フォーラムを開催し、日本人青年28名を派遣しました。フォーラムではロシア人青年24名と「青年層における民族文化の継承と発展」「若者の環境問題への取り組み」「青年層におけるスポーツの普及」をテーマに討論を行いました。フォーラム以外では、参加者と共にセルゲイ・エセーニンの家博物館やパヴロフの家博物館見学、リャザン市内見学、モスクワ市内視察等を行い、ロシア人青年との交流を深めました。



(上) フォーラム参加者集合 (左下) 分科会ディスカッション (右下) 野外討論会

(参加者の声)

互いに専攻やバックグラウンドが異なる日本側の参加者との交流からは多くの刺激と学びを得られ、ロシア側の参加者からのホスピタリティーや温かな気遣いに触れ、ロシアをより身近に感じるようになりました。今回の経験を更なる学習へと繋げ、将来国際社会において還元していけるよう邁進してまいります。多くの学びと素晴らしい出会いの場を提供して下さったことに心より感謝申し上げますとともに、日露間の青年層の交流が今後ますます活発となることを願ってやみません。

(お茶の水女子大学 石川 文絵)

日露両国の青年との議論・交流を通し、テーマを含め両国の文化や経済について、深く話すことで考えの幅を広げられたことは貴重な経験でした。短期間ではありましたが、リャザンとモスクワの街を見て、ロシアの歴史、人々の生活、現状を知り、よりロシアのことも学びたいと思えたことも、今後につながる経験となりました。

(広島大学 塚本 亮太)

(派遣)

日露青年演劇交流（9月19日～9月26日）

派遣人数:9名

(概要) イルクーツクのオフロープコフ記念アカデミードラマ劇場の演劇芸術祭からの公演招待を受け、劇団アンゲルスのメンバー9名を派遣しました。国際近代演劇芸術祭での「Hero Okichi」の公演、演劇学校訪問、ワークショップを行なった他、演劇に関する意見交換会等を通じて交流を深めました。



(左) 公演「Hero Okichi」(右) イルクーツク演劇学校の皆さんと

(参加者の声) イルクーツクでは、演劇及び文化的なものに対する関心の高さに驚きました。演劇学校の生徒の多くが公演を観に来て下さり、満席の劇場の熱気は今でも忘れられません。地域に誇れる文化を創り出す場と人が育ち根付く。私も1人の地域で演劇を志す者として大きな刺激を受けました。今回の交流を通して、演劇は世界共通の言語だと確信しています。私達が受けた歓迎と交流を金沢でも実現できるような環境を作っていけるよう、頑張りたいと思います。(劇団アンゲルス 本庄 亮)

開演直前まで、寒さと緊張でこわばった身体を入念にストレッチしながら、私たちの演劇が観客にきちんと伝わるか不安でいっぱいでしたが、終演後は会場全体が盛大な拍手に包まれたので安心しました。終演後の交流会では参加した三団体が余興を披露し合い、お互いの劇団のことを話したり、深夜まで交流が続き本当に仲良くなりました。彼らと出会えたおかげでこの交流プログラムが有意義なものとなり、心の財産になりました。(劇団アンゲルス 山田 将)

日露料理青年交流（9月23日～9月30日）

派遣人数:8名

(概要) 北斗文化学園インターナショナル調理専門学校（北海道）の青年8名をユジノサハリンスクへ派遣しました。現地ではサハリン・カレッジ・オブ・サービス専門学校の学生との合同調理実習で互いの国の伝統料理を作り、味わいました。将来、調理師を目指す日露の学生達は、互いの国の料理に対する興味や好奇心に溢れ、交流も一層深まりました。



(派遣)



ペリメニ（水餃子）作り

(参加者の声) 日本ではあまり知られていない広大なロシアの料理を学ぶことへの期待と共に日本を出発しました。調理実習では、5種類のスープ、ヴァレニキやペリメニ、そしてピロシキをはじめとする伝統的なパンの作り方を学びました。日本とは異なる味つけが多く、サワークリームやコンデンスミルク、ジャム等を多く使用することを知りました。日本との食文化の違いを沢山発見し、ロシアの文化風習、食をはじめとする様々な事に興味を持つ機会となりました。ロシアについてもっと知りたいと思うのでまた機会があれば是非ロシアに行きたいです。 (北斗文化学園 高橋 省伍)

日・サンクトペテルブルク空手交流 (9月28日～10月6日) 派遣人数:8名

(概要) 青年空手クラブのメンバー8名をサンクトペテルブルクへ派遣しました。現地では空手道場に通う青年家庭でのホームステイ、合同稽古、次期オリンピックの正式種目に決まったことにちなみ「空手とオリンピック」と題した青年討論会の開催、現地青年との市内視察等を行い親睦を深めました。



(参加者の声)

今回のプログラムはロシアと日本の考え方、価値観の違いについて大きく考えさせられる良い機会でした。食事や文化、伝統もそうですが、空手道の発祥地である日本から来た私達よりもロシアの空手家の方が「武道としての空手道」を重んじていて、私達はこのままで良いのかと強く考えさせられました。日本を出てみると気付かなかった事や出会えなかった人々、新しい発見が沢山あったので、ロシアに行けて本当に良かったです。是非またサンクトペテルブルクへ行きたいと思います。また、サンクトペテルブルクという素晴らしい都市や、友人に出会えた事に本当に感謝したいと思います。

(マリン空手クラブ 井原 結衣)



空手道学校「TOKUKAI」のメンバーとの交流

(派遣)

世界青年フェスティバル〈ソチ〉(10月14日～10月22日) 派遣人数:18名



モスクワ国際関係大学にてディスカッション

(概要) 学生主体の日本人青年グループ18名を、ソチで開催された「第19回世界学生フェスティバル」に派遣しました。そこでは多様な文化・スポーツプログラムを通じてロシア及び世界の様々な国・地域の青年たちと交流する機会を得ました。また、モスクワ滞在中にはモスクワ国際関係大学を訪問し、同大学の学生と充実したディスカッションを行いました。



世界青年フェスティバルにてスポーツ交流

(参加者の声) 学生フェスティバルのスポーツ会場では、空手、合気道、相撲など日本発祥の競技が多く催されていた。また、日本発祥の近代スポーツとして、ソフトバレーボールが紹介されていて、日本人と外国人での混成チームでゲームを楽しみました。今回はロシアのみならず様々な地域の人々と交流ができたことや、多種多様な体験を一つの機会で行われたことが非常に有意義でした。
(筑波大学 米山 貴文)

モスクワ国際関係大学の学生と「若者の宗教観」「PC・スマホ依存とその対策」について意見交換を行いました。学生は、英語はもちろん日本語を上手に話し、日本で外交官として働くことを目標に勉強している人もいました。外交官を目指す自分にとって、この出会いは貴重なものとなりました。

(神戸市外国語大学 尾迫 志央理)

日・サンクトペテルブルク大学生間交流(12月3日～12月10日) 派遣人数:10名



国際青年フォーラムにて

(概要) 日露相互理解を深めることを目的として10名の大学生をサンクトペテルブルクに派遣しました。青年政策に関する施設の視察として青年館「クロンシュタット青年宮殿」、「クヴァドラート」、「ツァルスコエ・セロー」の訪問を行った他、ペテルブルク国際青年フォーラムや日本国総領事館で意見交換等を行いました。



クロンシュタット青年宮殿にて

(参加者の声) 「青年館」という施設をいくつか訪れました。日本における公民館や公立のホールにあたるような施設ですが、ジムやダンスの練習部屋、道場のような部屋があり、多くの地域の子供たちがダンスや格闘技の練習を行うなど利用しており実用的である点に日本との違いを感じました。日本総領事館では青年政策委員会の方と総領事を交え、現地での社会問題やそこに日本がいかに協力できるかなど、興味深い

(派遣)



クロンシュタット青年宮殿にて

話を聞くことができました。国際青年フォーラムではロシアでの社会問題の解決に取り組んでいる様々な団体の発表があり、私たちは国際関係、環境問題、意見交換活性化のためのワークショップに参加することができました。

(大阪市立大学 吉田 鱗太郎、中村 莉光)

青年施設を訪れると、みんなうきうきしている光景が目に飛び込んできました。これらの施設でアクティビティを教える先生はボランティアと聞き、驚きを隠せませんでした。

(近畿大学 中田 直樹)

キーロフ州新体操国際大会派遣（12月4日～12月11日） 派遣人数:12名

(概要) 福井・長野の中学校、高等学校の新体操選手をキーロフ市に派遣し、ロシア8地域から300を超える参加者が出場した新体操競技大会「音楽と美」への参加を実現しました。また、新体操の合同練習や学校訪問等でロシア人青年と交流し、さらに、伝統人形制作体験や博物館訪問等を通じてロシア及びキーロフ市の歴史・文化にも触れました。



スポーツ学校での合同練習



©ウヤトカオリンピック選手養成学校
交流会の様子

(参加者の声) 交流会では、ロシアとキーロフ市について動画を作って下さって丁寧に教えてくれたり、歌を歌ってくれたり、私たちを歓迎するためにここまで準備をしてくださったということが一番うれしかったです。大会では、私たちが演技をしている時ロシアの人たちが盛り上げてくれて、踊っていてとても楽しかったです。試合の間に、ロシアのジュニア選手たちとたくさん写真を撮ったり、たくさん交流することができました。

(長野県 伊那西高校 小池 萌々華、小島 愛梨)

ロシアの方々の練習の雰囲気や練習への取り組み方などを、合同練習会を通してしっかりと学ぶことができました。福井に帰ってきて現在の練習に生かしています。そしてこれからの練習にも生かしていきたいと思います。

(福井県 丸岡中学校 山内 希莉)

(招聘)

地域医療に関する若手医療関係者交流 (1月28日～2月7日)

招聘人数:20名

(概要)

筑波大学・新潟大学との共催で、若手医療関係者20名を招聘しました。茨城・新潟の病院、介護サービス施設、ドクターヘリ・ヘリポート等の医療施設を視察し、地域医療の現場で働く日本の医療従事者と交流した他、茨城県副知事・北茨城市長を表敬訪問し、地域医療についての自治体の取り組みについても知見を深めました。



(上) 水戸医療センターヘリポートにて (左下) 筑波大学附属病院陽子線センターにて (右下) 水戸協同病院での意見交換会

(参加者の声)

日本の医療体制について教えてもらうことができた、とても充実したプログラムでした。陽子線センター、感染症科、リハビリ科など、本当に様々な分野での日本の医療について見ることができました。本当にありがとうございました。

(サントペテルブルク国立大学病院 ソプルン リディヤ)

地方での医療レベルが高いことや、介護サービス施設での和やかな雰囲気、スタッフの優しさなどが特に記憶に残りました。筑波大学附属病院では、参加者の興味に合わせ、個別に対応してくださいました。内容が多方面にわたる、充実したプログラムでした。

(カザン連邦大学クリニック ウラザエワ リリヤ)

(招聘)

ロシア弓道家招聘 (1月29日~2月5日)

招聘人数:23名



©全日本弓道連盟

特別外国講習会での稽古

(概要) 全日本弓道連盟との共催で弓道愛好家 23 名を招聘しました。まず一行は、外国人向け弓道講習会に参加するために愛知県を訪れました。ここでは愛知県立大学の訪問も行い、ロシア語学習者と交流しました。その後、東京に移動、明治神宮至誠館での特別稽古及び門人との紅白試合、中央大学弓道部との交流等を行いました。

(参加者の声)

素晴らしい先生との稽古、興味の似通った人々と知り合うこと、日本の美を楽しむことができました。多くの思い出ができ、日本の美しさや、礼儀正しさが特に記憶に残り本当に素晴らしい経験でした。

(ロシア弓道連盟 グリシナ ヴィクトリヤ)

ロシア語学習者と交流ができ忘れられない出会いとなりました。日本人学生の素晴らしい雰囲気によりよく知り理解することが出来ました。私の、この初めての日本への訪問は、今後の長い道の始まりに過ぎないものであることを願います。

(ロシア国立司法大学 タラソワ オリガ)



©全日本弓道連盟

中央大学弓道部との交流

ロシア囲碁グループ招聘 (3月10日~3月17日)

招聘人数:20名



日本棋院「幽玄の間」にて

(概要)

日本棋院との共催で囲碁愛好家 20 名を招聘し、囲碁の歴史についての講義、日本棋院の特別対局室「幽玄の間」の見学、プロ棋士による指導、日本人青年との親善対局等が行われました。また、2018年に世界囲碁まつりが開催される静岡市も訪れ、静岡市長表敬訪問、市内視察、そして囲碁を正科としている静岡大学での模擬授業、親善対局、交流会が実施されました。

(招聘)



日本棋院でのプロ棋士による指導

(参加者の声)

滞在期間中は、たくさんの場所を視察したにも関わらず、ほぼ囲碁漬けの毎日を送ることができた。非常に有益な時間を過ごすことができました。学生たちとの交流のおかげで、日本文化をよりよく理解することができ、日本語を勉強したくなりました。

(国立研究大学高等経済学院

スタロドゥプツェフ チモフェイ)

将棋・チェス相互交流 (3月23日～3月30日)

招聘人数:23名



チェス交流

(概要)

将棋を世界に広める会との共催で、将棋・チェス愛好家 23 名を東京・大阪・京都に招聘しました。将棋会館でプロ棋士による将棋指導を受けた他、日本人へのチェス指導を行い、交流を深めました。勤亭流書道(歌舞伎文字)、将棋駒製作、大阪商業大学アミューズメント産業研究所訪問等を通じ将棋文化を学びました。

(参加者の声)

強い将棋の選手と対局できたこと、和室でプロ棋士の公式戦を見学できたこと、学生将棋選手権に参加できたこと、日本語を覚えたこと、折り紙体験や寺社の見学など、すべてが心に残りました。

(ロシア体育スポーツ青年観光大学

ロジン ドミトリー)



将棋を教え合う日露参加者

この交流は、ロシアでの将棋普及、日本でのチェス普及に寄与すると考えます。チームの中にも、移動のバスの中や寝る前の時間ですら将棋に熱中している参加者もいたように、多くのチェスプレイヤーにとり将棋は魅力的なものです。

(国際チェス連盟 バザロフ コンスタンチン)

(招聘)

宮城県・ニジェゴロド州サッカー交流 (5月20日～5月27日) 招聘人数:17名



仙台大学との親善交流

(概要) 宮城県との共催で、県と自治体間交流協定を結んでいるニジェゴロド州から青年サッカーチームを招聘しました。宮城県庁表敬訪問、仙台大学視察及びひとめぼれスタジアム宮城での同大学との親善試合、明成高校との親善試合、宮城県柴田町少年サッカーチームとの交流、そして石巻市の被災復興地、復興まちづくり情報交流館や松島の視察等を行い、交流を深めました。



知事公館での文化体験

(参加者の声) 明成高校との親善試合、仙台大学での剣道体験や、瑞巖寺などが特に素晴らしかったです。仙台大学との親善試合では素晴らしいスタジアムで強い対戦相手と試合をすることができよかったです。対外試合を経験することは自分にとってとても大切なことです。宮城県・仙台市は伝統と文化のある素晴らしいところでした。

(ニジニ・ノヴゴロド国立スモールビジネスカレッジ
コズロフ エヴゲーニー)

合気道堀越道場交流 (5月26日～6月5日) 招聘人数:21名

(概要) 春日部市の合気道 堀越道場と共催で 21 名の合気道愛好家を招聘しました。日本武道館での全日本合気道演武大会、春日部市武道館での演武会・合同講習会、清里高原での合宿等で合気道を通じ日本人青年と交流した他、宮城県石巻市で被災復興地を視察し、被災者からの体験談を聞きました。また、春日部市の協力により、春日部市長表敬訪問、首都圏外郭放水路地底探検ミュージアム視察、春日部中学校での交流が実施されました。



(左) 堀越道場演武大会・講習会にて (中) みらいサポート石巻にて震災被害について学ぶ参加者 (右) 春日部中学校での交流

(参加者の声) 春日部中学校の生徒たちはとても印象に残りました。石巻市では震災による災害の規模に驚きました。

(合気道・柔道クラブ「レンカイ」コーチ チェルニャーエフ ドミトリー)

全日本合気道演武大会のような大規模な競技会に出場できたことは忘れられません。石巻市では災害に対する現地の方の思いや復興に向けた努力に感銘を受けました。清里高原合宿では日本文化に浸れて良かったです。

(合気道道場「セイメイ」 イリャショワ アンナ)

(招聘)

北海道サハリンよさこいソーラン交流 (6月7日～6月14日) 招聘人数:26名

(概要) 北海道日本ロシア協会との共催でサハリンの高校生・大学生からなるよさこいソーラングループ26名を札幌に招聘しました。YOSAKOI ソーラン祭りに参加し、10回を超える演舞を披露した他、札幌国際情報高校や札幌新陽高校で日本人高校生と交流し、琴・茶道・なぎなた等の文化体験に参加しました。また、北海道庁表敬訪問、市内視察等を通じ日本への理解を深めました。



YOSAKOI ソーラン祭りでの演舞

(参加者の声) このような機会は私たちの間の可能性・交流を広めるために、なくてはならないものだと考えます。このプログラムのお陰で友情が深まり、また日本の友人をつくることができました。私の夢はサハリンで YOSAKOI を伝統にすることです！ (サハリン国立大学 ゴンチャロワ アナスタシヤ)

至誠館合気道交流 (6月8日～6月16日) 招聘人数:22名

(概要) 合気道愛好家22名を招聘し、至誠館(明治神宮武道場)との共催で、東京・伊勢・熊野にて交流プログラムを行いました。至誠館、熊野市内の道場での稽古を通じて日本人青年と交流した他、伊勢・熊野の神社・世界遺産視察を行い、日本の歴史・文化を学びました。



(左) 至誠館での日本人青年との稽古 (右) 熊野那智大社参拝

(参加者の声) 稽古は、自己の問題解決・成長のために有意義なものとなりました。伊勢神宮での「結果とは費やした努力です」という言葉が心に残りました。日本の合気道に触れ、日本人と交流し、短時間で最大限の情報を得、日本人の優しさに触れられました。(Plastek 社 ヤクーニナ オリガ)

伊勢神宮で、遷宮に関する宮大工の仕事について聞いたことが印象的でした。また、熊野の自然の美しさは素晴らしかったです。(SVAROG 社 キセリョーワ オリガ)

(招聘)

日露サッカーユース交流 (6月20日～6月29日)

招聘人数:23名

(概要)

EU JAPAN SPORTS との共催で、FC ロコモチフ モスクワユースチーム 23 名を招聘しました。筑波大学蹴球部 B チーム、FC 東京ユースチームと交流試合を実施しました。早稲田大学高等学院、日本大学鶴ヶ丘高校を訪問し、同世代の日本人高校生と交流した他、鎌倉を訪問し、茶道体験等を通じて日本文化を学びました。



(左) 筑波大学蹴球部との交流試合 (右) 日本大学鶴ヶ丘高校での剣道体験

(参加者の声)

日本大学鶴ヶ丘高校や早稲田大学高等学院訪問、鎌倉訪問などが最も印象に残りました。また茶道体験も印象的でした。全ては高いレベルで行われ、素晴らしかったです。

(FC ロコモチフ グルチェンコフ セルゲイ、スイチョフ ヴィターリー)

富山県・ロシア極東ダンススポーツ交流 (7月4日～7月11日) 招聘人数:27名

(概要)

富山県ダンススポーツ連盟との共催で、ロシア沿海地方から青少年ダンススポーツチームを招聘しました。一行は富山県と沿海地方の友好提携 25 周年を記念した「2017 ロシア沿海地方ダンススポーツ交流大会」に出場し、優秀な成績を収めました。また、富山市長表敬訪問、富山県内の小学校・高等学校訪問、ダンス合同練習会等で交流を深めた他、歴史・文化を知るプログラムとして南砺市五箇山の世界遺産視察等も行いました。

(参加者の声)

日本の子供たちがとても積極的にダンスをしたことが印象的でした。富山国際大学附属高校での弓道と日本語教室も心に残りました。

(ギャラクシー社 セルミャーギナ スヴェトラーナ、
ヴォリノ・ナジェジジンスコエ村立第 1 学校 クルグリャコワ マリヤ)



豊田小学校でのダンス披露

(招聘)

日本語学習青年交流（7月9日～7月16日）

招聘人数:20名

(概要) ロシア各地の日本センター等で日本語を学ぶ青年 20 名を富山・石川・東京に招聘しました。外務省、富山県庁を表敬訪問した他、早稲田大学日本語教育研究センター訪問、ロシア人日本研究者のレクチャー、企業訪問、富山県立伏木高校や富山大学訪問等を通じ日本への理解を深めました。



(左) ㈱不二越見学 (右) 早稲田大学日本語教育研究センターにて

(参加者の声) 公共交通機関を利用したり、早稲田大学日本語教育研究センターでどんなロボットがあったらいいか日本人学生と話し合ったり、企業訪問の際はロボットを操作したりすることもできました。また、富山大学で「かわいい」という概念についての学生のプレゼンを見たり、金沢で茶道体験をしたりしたことが特に印象に残りました。

(沿ヴォルガ医療センター ムリナ エカテリーナ)

伏木高校では意欲的な学生や書道の授業、琴の演奏が素晴らしかったです。富山県庁では自由な雰囲気の中懇談することができました。金沢では兼六園や野村家（武家屋敷跡）を見ることができ、別の時代にいるような感覚になりました。

(サンクトペテルブルク ARLON 社 カバノワ アレクサンドラ)

函館ウラジオストクハンドボール交流（7月23日～7月29日）

招聘人数:13名

(概要) ウラジオストク市との姉妹都市提携 25 周年を迎えた函館市との共催で、極東連邦大学ハンドボールチームを招聘しました。一行は、函館大学、函館大学付属有斗高校及び函館市高校選抜チームと白熱した交流試合を行い、また、函館市長表敬訪問、函館市内のロシアゆかりの地訪問を通じ函館とロシアの関係について知識を深め、さらに、極東連邦大学函館校でロシア語を学ぶ学生と交流を行いました。



(左) 函館大学との交流試合 (右) ロシア語学習者との交流

(参加者の声) 函館市内にロシア文化がよく保存されていたことが心に残りました。ハンドボールの試合で、松脂ではなく両面テープを使ったことは面白かったです。有斗高校との試合では、観客の応援が素晴らしかったです。また、ロシア正教会や函館市長の挨拶も心に残りました。日本のハンドボール選手たちがロシアに来るのを待っています！

(極東連邦大学 ミロセルドフ ルスタム、ポマースキン アントン)

(招聘)

日・サハ青少年スポーツ文化交流（8月8日～8月15日） 招聘人数:18名

(概要) 2016年に「アジアの子供たち」スポーツ交流プログラムで北海道のU18チームをロシア・サハ共和国に受け入れてもらった答礼として、北海道名寄市との共催でサハ共和国U18サッカー選手・文化関係者グループ18名を招聘しました。名寄市では名寄市長表敬訪問、道北地区ユースサッカーチームとの親善試合の他、弓道・陶芸等の文化体験も行いました。また、東京滞在中には堀井学外務政務官を表敬訪問し、サハの民族楽器「ホムス」の演奏を披露しました。



(左) 名寄ユース・剣淵高校連合チームとの親善試合 (中) 陶芸体験講座 (右) 弓道体験

(参加者の声) 名寄・美深高校連合チームとの対戦では、対戦相手の経験豊富さを感じました。日本文化体験では、弓道の射る前の準備が心に残りました。日本文化、特に日本の食べ物と日本の皆さんが好きになりました。
(ポロゴンツィ村ミュリュ男子高校 アレクセエフ アレクサンドル)

初めて日本に来ました。交流試合と共に、この滞在を一生忘れられないと思います。陶芸体験ではマグカップを作ることができました。もっと日本に長く滞在できればと思います。日本の皆さんにサハ共和国に来てほしいです。
(サハ共和国ユースサッカーチーム マリュチン イワン)

舞鶴ナホトカ・ソフトボール交流（8月9日～8月16日） 招聘人数:24名

(概要) ナホトカ市と姉妹都市である京都府舞鶴市との共催で、ナホトカ市ソフトボールチーム24名を招聘しました。和田中学校、城南中学校とのソフトボール親善試合やホームステイを行い交流を深めた他、舞鶴市長表敬訪問、陶芸体験、かまぼこ作り体験等を通じ舞鶴市の文化について学びました。



(左) 城南中学校ソフトボールチームと (右) 市民交流会での文化体験

(参加者の声) 長年のナホトカと舞鶴の野球・ソフトボール交流で知り合った友人たちと再会できたことが素晴らしいかったです。文化行事、スポーツ行事、そして善隣関係を長年築いてきた舞鶴市民との交流を含む、多様なプログラムをロシア選手団のために作っていただきました。ナホトカと舞鶴との長年の交流は、民間外交が日露の友好関係に安定をもたらすことを証明しています。この友情を続けていくために全力を尽くします。
(野球クラブ「シーライオンズ」コーチ ベリャーエフ ヴラジーミル)

(招聘)

ハバロフスク・東北北陸 相互理解促進交流 (8月13日～8月20日) 招聘人数:10名



肘折温泉盆踊り大会



地元の皆さんと盆踊りの練習

(概要) インターネット上で積極的に情報発信を行う青年10名をハバロフスクより招聘しました。山形県で日本人青年と盆踊りの練習や盆踊り大会への参加、「肘折こけし」絵付け体験をした他、石川県にて金沢市長表敬訪問、ロシア語学習者グループ「ヤーブラチカ」と交流を行いました。参加者たちは「jrex と日本の8月」(#японский_август_с_jrex)というリンクを使い、ブログやSNSで訪問地について情報発信しました。

(参加者の声) ヤーブラチカの皆さんから金沢に関する多くの面白い事を教えてもらいました。盆踊り大会では他の参加者の皆さんの準備の良さ、衣装、生演奏の音楽、すべてがとても気に入りました。1人1人の踊りが全体の踊りとなっていくことが素晴らしかったです。

(スクラップブックアーティスト ベルロワ マリヤ)

ロシア・松本サイクリング交流 (8月24日～8月30日) 招聘人数:13名



松本城にて



マウントサイクリング in 乗鞍にて日本人と助け合う参加者

(概要) 長野県松本市との共催でサイクルスポーツに関心のある13名を招聘しました。「全日本マウンテンサイクリング in 乗鞍」、松本市内企業での意見交換、派遣プログラム「日露剣道交流」でエカテリンブルグを訪問した信州大学生を含む市民との意見交換会を行い日本人青年と交流しました。また、松本市長表敬訪問、伝統産業(味噌醸造所や酒蔵)や市内の名跡を訪問し、松本の歴史や文化を学びました。

(参加者の声) 乗鞍マウントサイクリングに参加できたこと、松本市長に会えたことが最も印象に残りました。また、松本城や酒蔵で聞いたそれぞれの歴史が印象的でした。初めて青年交流プログラムに参加し、日本文化を知ることができました。

(国立産婦人科医療研究センター

コスチュコフ キリル)

(招聘)

愛知・ロシア極東サンボ交流 (8月25日～8月30日) 招聘人数:19名



日進市でのサンボ交流

(概要) 2016年に「日露相撲・サンボ交流プログラム」で愛知県の女子選手団をウラジオストクで受け入れてもらった答礼として、ウラジオストク及びコムソモリスク・ナ・アムーレの青年格闘技選手チームを愛知県サンボ連盟との共催で招聘しました。愛知県日進市でのサンボ交流大会では、同年代の日本人選手たちとの充実した交流が実現しました。また、愛知県知事表敬訪問、学生柔道大会見学、日本文化体験及び名古屋市、犬山市視察も実施しました。

(参加者の声) 愛知県知事表敬や生け花などの体験が心に残りました。日進市でのサンボ交流では、良い試合、良い対戦相手に恵まれ、温かい歓迎を受けました。すべてが素晴らしく、記憶に残りました。

(女子格闘技トレーニングセンター「アマゾンカ」トルソワ アレクサンドラ)

鳥取県・沿海地方サッカー交流 (8月30日～9月6日) 招聘人数:17名

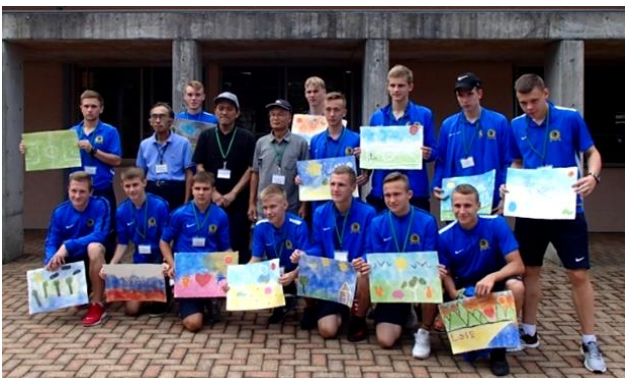


八頭高校サッカー部との交流試合

(概要) 鳥取県との共催で、県と友好協定を結んでいる沿海地方より、プロサッカークラブ「ルーチ・エネルギー」のユースチームを招聘しました。米子北高校、境高校、八頭高校、鳥取城北高校サッカー部との合同練習・親善試合では、日露双方の選手が貴重な経験を得ることができました。また、鳥取県庁表敬訪問、鳥取砂丘視察、紙漉き体験等を通じ、鳥取県の歴史・文化を学びました。

(参加者の声) このプログラムは、日本文化を知り、サッカーについては困難な試合からいろいろ学ぶという素晴らしい可能性を与えてくれました。日本の美しさがすっかり好きになりました。もし機会があれば、ぜひまた来日したいと思います。有難うございました！

(ウラジオストク 47番学校 11年生
センニコフ アレクセイ)



青谷和紙工房での紙漉き体験にて製作した作品
色付けした和紙で絵を作りました

(招聘)

村山・ヤクーツク 文化・民族舞踊交流 (9月26日～10月3日) 招聘人数:16名



花笠踊り体験



んだニャー祭りでの演舞

(概要) 山形県村山市との共催で、村山市と姉妹都市であるヤクーツク市より、北方少数民族舞踊団「グルン」の11名、北東連邦大学で日本語を専攻する学生5名を山形・東京に招聘しました。山形県知事および村山市長表敬訪問、蔵王訪問、蕎麦打ち、村山産業高校での学生交流、「んだニャーまつり」での演舞披露、「山形まつりだわっしょい」視察、花笠踊り体験、日本語でのヤクーツク紹介等を行い、村山とヤクーツクの文化、舞踊を通じ交流を深めました。

(参加者の声) 村山市の視察、特にバラ園や、山形市視察、蕎麦打ち体験、祭りへの参加など、全てが最高でした！参加者全員に最も素晴らしい思い出だけが残ったと思います。

(北東連邦大学 ニキフォロワ ヴェロニカ)

このプログラムで来日し、日本の大学に進学することが私の夢となりました。全力で頑張ります！

(北東連邦大学 ドミトリエワ タチヤナ)

武蔵野・ハバロフスク学生間交流 (10月8日～10月15日) 招聘人数:15名

(概要) 2016年派遣プログラム「持続可能な社会構築のための大学間交流」答礼事業として、ハバロフスク太平洋国立大学から学生15名を武蔵野大学との共催で招聘しました。「変貌する近代都市東京と歴史・文化体験」をテーマとし、武蔵野大学・東京外国語大学・龍谷大学等で学生交流を行いました。



(参加者の声) この1週間で日本人学生たちととても親しい友達になることができました。彼らがロシアに来られるといいです。日本人の学生たちはこの短い期間で私にとってとても大事な存在となりました。この交流プログラムにとっても満足し、空港では泣いてしまいました。言葉では表せないくらい色々なことを学べました。

(太平洋国立大学 トウカチュク ゲオルギー、リヤザンツェワ アンナ)

（招聘）

日本語履修大学生交流（10月17日～10月24日）

招聘人数:44名

（概要）

山口県および山口県長門市との共催で、ロシア各地で日本語を学ぶ大学生44名を山口、東京に招聘しました。2017年4月にロシア クラスノダール地方と友好協定を結んだ山口県では、山口県知事表敬訪問、山口県立大学での授業参加、紙漉き体験、長門市での日露戦争兵士墓碑訪問、農業体験等を行いました。都内では上智大学の授業に参加した他日本人青年と都内視察を行い交流を深めました。



（左上）元乃隅稲成神社（右上）長門市での稲刈り体験（左下）和紙製作・折染め体験（右下）山口県立大学での文化紹介

（参加者の声）

プログラム中にたくさんの役立つ日本語を覚えることができました。山口県に行き、知事にまでお会いできたことが心に残っています。山口県立大学での日本人学生たちによる日本文化についてのプレゼンや、稲刈りに挑戦し、泥にはまってなかなか抜けられなかったこと、神社でおみくじを引いたり願い事をしたりしたこと、全てが忘れられません。

（カザン連邦大学 ギマゾワ アイリーナ）

文化体験の際に感じた山口の歴史、知事表敬訪問の際に考えた日本とロシアの未来、そして墓参の際に考えた日本とロシアの今までの歴史、全てが印象に残っています。

（北東連邦大学 ゴルチャコワ ナタリヤ）

山口県立大学での日本人学生とのディスカッションと、上智大学で日本人学生と一緒に受講した通訳の授業が一番良かったです。日本人と長い時間日本語を話すことができました。

（サハリン国立大学 ドゥルガル ポリーナ）

(招聘)

福島県玉川村・リヤザン空手交流（10月25日～11月1日） 招聘人数:11名



會津藩校 日新館訪問

(概要)

福島県玉川村との共催でリヤザン国立大学の空手愛好家 11 名を招聘しました。玉川村村長表敬訪問、空手・古武道研修を実施した他、玉川村立須釜中学校及び泉中学校を訪問、そこで和楽器演奏、日露の料理体験、ロシア語教室、剣道合同練習等を通じて密度の濃い交流を行いました。また、東日本大震災被災地域訪問、座禅体験、会津若松市視察等も行いました。



杖道研修

(参加者の声)

震災復興地域では、順調に復興が進んでいる様子が印象的でした。玉川村では、村、特に自然の美しさ、そして村長の優しさが心に残りました。空手、古武道研修では、学ぶ人それぞれに合わせた指導を受けることができました。大安寺では、座禅についての住職からのお話や読経が素晴らしかったです。言葉では伝えきれないほどの、一生忘れられない大きな喜びと強烈な思い出ができました。ありがとうございました。

(リヤザン国立大学 アスタシュキン マクシム)



須釜中学校での琴体験

須釜中学校での生徒の皆さんによる素晴らしい合唱と琴でのロシアと日本の民謡演奏が素晴らしかったです。温かいもてなし、面倒見の良い同行者たちや、この地域の文化、歴史、伝統に関する非常に興味深い情報など、全てが心に残りました。どうもありがとうございました！押忍！日本が大好きです。

(リヤザン国立大学 グロトフ オレグ)

北海道・サハリン農業交流（10月30日～11月6日） 招聘人数:8名



北海道大学農学部での交流

(概要)

北海道農業法人協会との共催で、サハリンの若手営農家 8 名を北海道へ招聘しました。北海道庁を表敬訪問し、北海道農業についてのブリーフィングを受けた他、北海道大学農学部学生による北海道農業に関する発表聴講、ロシア人営農家によるロシア農業の紹介、意見交換、札幌・帯広・十勝等の農園・牧場視察、農業体験等を通じ日本人青年農業従事者との交流を深めました。また、茶道や華道体験、浄土宗新善光寺では読経体験も行い、日本文化にも触れました。

(参加者の声)

北海道庁で日本の農業制度についての説明を受けられたこと、茶道体験の際の日本の方の、日本の生活文化の詳細を伝えたいとい

(招聘)



フラワーパーク大花園視察

う気持ち、読経の際の特別な雰囲気、北海道大学学生の素晴らしい知識、訪問した農園や牧場の素晴らしい技術などが印象的でした。ありがとうございました。

(サハリン州農協・営農連合会 会長 コフトゥン イワン)

多くの新しい技術や興味深い伝統的な名所を視察することができ、とても充実したプログラムでした。たくさんの有益な経験を活かし、サハリンでも実現できるよう、努力していきたいと思えます。

(個人営農企業 Oniskovets D.V.社 プレンコワ スヴェトラーナ)

ノボシビルスク若手教師交流 (10月30日～11月6日)

招聘人数:14名



北星学園女子中学高等学校にて授業見学

(概要)

NPO 法人札幌ノボシビルスク協会との共催で、ノボシビルスクのシュコーラ (小中高等学校一貫の学校) の若手教師 14 名を招聘しました。札幌の^{わかだま}丘珠高校、北星学園女子中学高等学校、山鼻南小学校を訪問し、日本の初中等教育の授業やロシア語の授業を視察した他、日本の教員と双方の初中等教育についての意見交換をし、また、着付け体験・茶道・華道等の日本文化にも親しみました。



山鼻南小学校の授業訪問

(参加者の声)

小、中、高等学校、様々な段階の教育機関を訪問できたことが特に素晴らしかったです。学校の伝統、出会い、居心地の良さが素晴らしかったです。研修で英語教師として、ぜひ山鼻南小学校に来られればと思います。

(第4番ギムナジウム英語教師 ジャチュク オリガ)



着物体験

着物を着た時に感じた文化や穏やかな気持ち、丘珠高校の学生の素晴らしいロシア語能力などが印象的でした。必ず日本語の勉強を始めようと思います。日本の先生方や、生徒たちと一緒に働くことができれば、そして、いつか私の生徒たちが日本を訪れることができれば、と思います。ありがとうございました。

(第4番ギムナジウム 英語教師 スエヴァロワ ナタリヤ)

北星学園での興味深い教育形式、生徒たちとの授業、山鼻南小学校での児童たちの歓迎会や発表などが印象的でした。

(工学リセー (高等学校) 数学教師 イサエワ エレーナ)

(招聘)

日本語履修高校生交流 (10月31日~11月7日)

招聘人数:49名

(概要)

ロシア各地で日本語を学ぶ高校生 44名と引率教師 5名を招聘しました。東京では北園高校や早稲田大学高等学院を訪問し、授業参加・歌・ダンス・スポーツ等を通じ交流しました。また、日本人高校生との都内見学も行いました。京都では北稜高校で交流を行った他、京都国立博物館や金閣寺、二条城等の視察、池坊での華道体験等を行い日本の歴史や文化を学びました。



(左上) 早稲田大学高等学院にて (右上) 北園高校での体育の授業体験 (左下) 華道体験 (右下) 北稜高校での理科の授業体験

(参加者の声)

北稜高校では、ロシア人全員に日本人の「パートナー」が付き添ってくれて交流できたのがとても良かったです。そして雰囲気も良かったです。プログラムの中で、日本の生活スタイルに浸ることができたのが素晴らしいです。

(モスクワ 1573 番学校 ベリコワ エリザヴェータ)

生け花を生けたこと、早稲田高等学院の「アイドル」のグループなどがとても楽しかったです。日本語の勉強をして、日本の友達たちとメッセージのやり取りをしようと思います。このプログラムの終了後私の日本への愛は更に強まり、日本は私の夢であるということに確信を持ちました。将来、日本に関係する仕事ができたらと思います。

(ウラジオストク 51 番学校 キリク アレクサンドラ)

北園高校の高校生たちと一緒に歌を歌ったことが心に残っています。全ては素晴らしく、もっと長く滞在したかったです！

(ハバロフスク 3 番ギムナジウム セリヴェルストフ ボグダン)

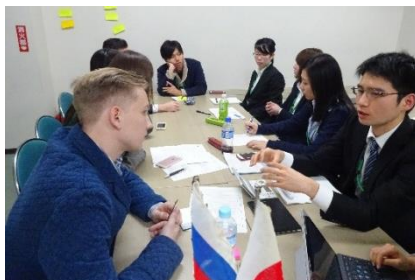
(招聘)

日露青年フォーラム〈札幌〉(11月17日～11月24日)

招聘人数:招聘 33 名、フォーラム日本人参加者 30 名

(概要)

ロシア人青年 33 名、日本人青年 30 名が 11 月 20 日から 2 日間、ロシア国際青年センター、北海道大学との共催で開催した「日露青年フォーラム 2017」に参加しました。フォーラムでは「地域振興・開発」「文化的多様性」「観光と交通」について議論しました。フォーラム以外では、習字、折り紙体験、小樽市内視察、日本人学生との都内散策等を通じ日本文化を学びました。



(上) 参加修了証を手に (左下) 分科会 A (中下) 分科会 B (右下) 分科会 C

(参加者の声)

文化体験で漢字を書いたこと、フォーラムでの日本人学生との共同作業や、日露交流を活発化させるためには航空券の学生割引が有効だろうという提案がされたことなどが面白かったです！

(サンクトペテルブルク国立大学 ヴェルシニン イグナト)

国際関係の構築過程に参加し、これがどのように進行するものなのかを理解することは、とても素晴らしいことでした。

(グプキンロシア国立石油ガス大学 ギマデエワ リヤイサン)

文化的多様性という、定義が難しいテーマであったが、国どうしでは様々な問題を抱えているけれど、我々は本フォーラムで友好関係を築くことができた。いまの国の概念がどこまで残るのか分からないという未来志向の共通意識が持てた。今も彼らとはつながっていて、この人脈は大きな財産だと思う。

(上智大学 大石 真也)

(招聘)

愛媛県・オレンブルグ柔道交流（12月4日～12月11日）

招聘人数:25名

(概要)

愛媛県との共催でオレンブルグの青年柔道愛好家グループの招聘を行いました。松山市では、愛媛県庁表敬訪問に始まり、松山東雲中学・高等学校での交流会及び文化体験、ロシア人墓地訪問を含む愛媛大生との市内散策及び愛媛大学訪問、愛媛県武道館での新田高校、松山大学、松山東雲女子大学柔道部との合同練習、しまなみ海道サイクリング及び潮流体験等、充実したプログラムが実施されました。また、東京滞在中には講道館の国際合宿を見学、世界の強豪選手の稽古を目にすることができました。



(左上) 愛媛大学での交流 (右上) 県武道館での合同稽古 (左下) 松山東雲中学・高等学校での文化体験 (右下) しまなみ海道サイクリング

(参加者の声)

愛媛大生との交流や、愛媛県武道館での合同練習など、松山での滞在が強く印象に残っています。特に、新田高校の選手に貴重な経験をさせてもらいました。また東京では講道館で柔道資料館や世界の強豪選手たちの練習を見学できて良かったです。
(オレンブルグ市立第8リセ シャシコフ イワン)

松山東雲中学・高等学校で、日本語での自分の名前の書き方を教わったことや、学生たちがどのように日本文化を学んでいるか見られたことが面白かったです。稽古では日本人選手たちとの乱取りや、交流試合で日本人が応援してくれたことなどが良い思い出です。新しいことをたくさん学びました。

(オリンピック選手養成学校 トウニャン ディアナ)

松山東雲中学・高等学校での茶道や書道体験、ロシア人兵士の墓地訪問、日本人との稽古などが特に心に残りました。丸一週間、日本文化の中にどっぷり浸かることができました。

(オレンブルグ国立大学スポーツセンター「ペンギン」柔道ヘッドコーチ ヴラードフ デニス)

日露青年交流センター

住所：〒105-0003 東京都港区西新橋 1-17-14
西新橋エクセルアネックス 7階
TEL: 03-3509-6001
FAX: 03-3509-6008

E-mail : info@jrex.or.jp
HP: <http://www.jrex.or.jp>
Facebook: [@JapanRussiaYouthExchangeCenter](#)
Twitter : [@jrex_tw](#)

表紙写真

左上:舞鶴・ナホトカ ソフトボール交流、右上:日露青年フォーラム<札幌>、左下:日露料理青年交流、右下:宮城県・ニジェゴロド州サッカー交流